25-S(SB)

総合型選抜

新聞学科

1．指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

2．解答用紙の所定欄に受験番号・氏名・フリガナを記入しなさい。

3．この問題冊子の不ぞろい等に気づいた場合は、手を挙げて監督者に申し出なさい。

4．解答時間は80分です。

5．試験終了まで、受験者の退出は認めません。

試 験 問 題

第１問

次の**文章**は、アメリカの政治哲学者ジョン・ロールズ（1921-2002）の著作『正義論』の一部を解説したものである。この**文章**を踏まえたうえで、ABCの会話を読み、各**問**に答えなさい。

《文章》

ロールズは、「無知のヴェール」という新しい概念装置によって、①社会契約思想を修正する。

「社会契約なんて虚構だ」という批判がすでにあることを、ロールズは意識している。そして、社会契約思想家たちの言うような、「原始的な自然状態」を想定して「そこで全員がいっせいに社会契約を結ぶ」という論法にはさすがに無理がある、とロールズは認める。

そこを修正してロールズは、自然状態の代わりに「無知のヴェール」という新しい概念を、思考過程の装置として置く。そしてこう問う。「あなたがオギャーと生まれる直前の赤ちゃんだとして、どんな境遇に生まれるかを知ることのできないヴェールをかけられていたら、どんな社会を望みますか」と。

その自分が生まれる社会は、大富豪と極貧者に分かれる社会かもしれない。ほどほどの富者と何とかはできそうな貧者が混在する社会かもしれない。そして自分が生まれる境遇は、金持ちの家かもしれないし、貧しい家かもしれない。そこが「無知のヴェール」をかけられて見えない、と想定するのである。これが、社会契約思想の「原始的な自然状態」に代わるロールズ流の想定である。

そしてロールズはこう推論する。「こう問われた人の多くは、自分が最悪の境遇、その社会ではもっとも貧しい家に生まれる場合を考えて、最も不利な立場の人でも何とかはできそうな社会がよい、と答えるだろう」と。大富豪と極貧者に分かれる社会よりも、富者もほどほどで貧者もほどほどという社会のほうがマシで、自分が生まれる家を前もって知ることができないなら、後者の社会に生まれたいと思うはずだ、と言うのである。

出典：徳永哲也『正義とケアの現代哲学：プラグマティズムから正義論、ケア倫理へ』（晃洋書房、2021年）（出題にあたって一部改変した）

《会話文》

A「私はロールズの意見に賛成だね。自分がもしとても貧しい家に生まれてしまって、病院にも行けないリスクを考えたら、少しくらいは平等な社会に生まれたいから」

B「そうかな。ロールズの意見は、おかしいと思うよ。ロールズが言っているのは、1000万円を [x] %の確率でもらえる権利と、[y] 万円を確実にもらえる権利とがあったら、後者のほうがいいってことだよね」

A「それのどこがおかしいの？」

B「1000万円を [x] %の確率でもらえる権利の期待値は、[z] 万円、[y] 万円を確実にもらえる権利の期待値は、40万円でしょ。前者の期待値は後者の２倍。同じように、②極貧に生まれる心配をするよりも、大富豪に生まれる可能性に賭けたほうがいいかどうか、計算すればいいんだ」

A「そうかなあ、Cさんは、どう思う？」

C「私はロールズに賛成はしないけど、Bさんが言っていることもおかしいと思う」

A「つまり？」

C「人生は一度きりだから、何回も試すことはできないよね。Bさんは、飲んだら10億円がもらえる代わりに、50%の確率で死ぬ薬と、飲んでもなにももらえないけど、毒性がまったくない薬を渡されたとき、死ぬ可能性のある薬を飲むの？」

B「飲むよ。だって前者の期待値は５億円じゃない」

A「ええ？　ほんとう？　自説を変えたくなくて、意地を張っているだけじゃないかなあ。ところで、Cさんはなんでロールズに賛成しないの？」

C「Aさんみたいなゴリゴリの確率論者は説得できないからだよ。無知のヴェールのもとで、みんなの意見が一致するわけがないよね」

A「うーん、このまえの授業で、③相対的貧困率を習ったよね。④大富豪と極貧のひとのあいだの格差が小さくなればなるほど、相対的貧困率は低くなるから、格差の小さな社会のほうが、いいんじゃないかな」

問１　**会話文**のｘｙｚに入る数字をそれぞれアラビア数字で答えなさい。

問２　**文章**中の下線部①について、17世紀に存命した社会契約思想家の名前をひとり答えなさい。

問３　**会話文**中の下線部②について、Bがこの下線部②で主張していることは、**文章**中のロールズの考えによれば、成り立たない。その理由を、〈無知のヴェール〉という単語を必ず使って、50文字以内で述べなさい。

問４　**会話文**中の下線部③について、次の相対的貧困率の定義を読んだうえで、**表１**のような５つの世帯から成る社会の(1)等価可処分所得の中央値、(2)貧困線、(3)相対的貧困率をそれぞれ答えなさい。なお、各世帯はすべて、父母および子２人の計４名から成ると仮定する。

【定義】
等価可処分所得（世帯の可処分所得（総所得から一定の支出を除いたもの）を世帯人数の平方根で割った所得）の中央値の半分を「貧困線」と呼び、その貧困線未満の等価可処分所得しか得られていない世帯員（世帯を構成する各人）の割合を「相対的貧困率」と定義する。

表１

世帯名	サトウ	スズキ	タカハシ	タナカ	イトウ
世帯の等価可処分所得（単位：日本円）	１億	5000万	600万	300万	200万

問５　**会話文**中の下線部④について、**問４**で与えられた相対的貧困率の定義にしたがうかぎり、下線部④のAの発言は成り立たない。その理由を50文字以内で説明しなさい。

第２問

コミュニケーション研究では、マス・メディアの効果・影響について様々な議論が行われてきました。以下の**文章A**、**文章B**、**文章C**を読んで各設問に答えて下さい。

【文章A（第三者効果の説明）**】**

マス・メディアの効果と影響力に関して、「人は、マス・メディアの効果が自分よりもむしろ他者に対して大きな影響を及ぼすと見積もる傾向がある」「他者は様々なメディアの影響を受けるが自分は影響を受けないと多くの人が考える」と指摘されたことがある。こうした効果は「第三者効果（The third-person effect）」と呼ばれ議論された。

問１　以下の①から⑥の中で、**文章A**で解説されている「第三者効果」の内容に適合的な記述を**２つ選択**してください。

① テレビの報道番組でコメンテーターが政治家を批判していたが、コメンテーターの方が間違っていると考えた。

② テレビの情報番組で取り上げられた行楽地に家族で旅行しようと考えた。

③ 政治家が「市民はテレビの報道番組に影響を受ける可能性が高い」と考えた。

④ 会ったことのない政治家の不祥事に関する情報をテレビの報道番組で知った。

⑤ テレビの情報番組で取り上げられた行楽地には観光客が殺到するだろうと考え、家族旅行の候補地から外した。

⑥ テレビの情報番組で取り上げられた行楽地ではなく、友人が勧めてきた行楽地に行こうと考えた。

【文章B（新聞記事）**】**

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、マスクだけでなく、トイレットペーパーやティッシュペーパーも全国的に品薄になっている。官民挙げて正常化を急がねばならない。

トイレットペーパーなどについて、「マスクと原料が同じ」「中国から輸入できなくなる」といったデマがＳＮＳで拡散したのが、騒動のきっかけとなった。

いずれも事実に反する。原料は異なり、大半は国産だ。在庫も十分という。信頼できる情報源で確かめて冷静に行動してほしい。

ＳＮＳでは、空になった商品棚の写真が次々とアップされる。それを見てデマを信じていない人も購入に走る。そのあおりで、地域によってはオムツや米、即席麺なども手に入りにくくなった。*

不安が増幅していく「負の連鎖」を断ち切るには、品薄の解消に最優先で取り組む必要がある。

特にトイレットペーパーは生活必需品だ。現在は多くの店で開店前から行列ができ、入荷してもすぐ売り切れてしまう。これでは業界団体がいくら「在庫はある」と呼びかけても安心できまい。

製紙会社は在庫をできる限り放出し、増産にも取り組むべきではないか。政府には円滑な配送を支援することが求められる。

一方、増産しているはずのマスクや消毒用アルコールの不足も一向に解消されない。より深刻な事態である。医療用マスクでさえ病院に十分行き渡っていない。改善は急務と言えよう。

政府は、国民生活安定緊急措置法に基づいて、マスクを製造業者から買い取り、北海道の自治体に届ける方針を示した。

この法律は1973年の第１次オイルショック時に制定された。当時、トイレットペーパーなどが買い占められたことから、生活に不可欠な物資を安定的に供給し物価の高騰を抑える狙いだった。

マスクや消毒用アルコールの不足を早期に解消するには、民間任せでは限界がある。同法のさらなる活用は検討に値する。

消費者には節度ある対応が求められる。買い占めや転売目的の購入は慎むべきだ。

病院や介護施設の関係者など、優先度の高い人にきちんと届くようにしなければならない。この時期は花粉症で苦しむ人も多い。

品薄の商品が、ネット上で非常に高い値段で売られているのも見過ごせない。通販やオークションのネット運営事業者は、社会通念上、問題がある出品については、直ちに削除すべきだろう。

（出典：『読売新聞』2020年３月４日社説「トイレ紙品薄　潤沢な供給で不安の解消急げ」）

【文章Ｃ（直接効果論の説明）】

「マス・メディアから情報を受け取った人々は即時的にその態度や行動を変化させる」という考え方は直接効果論と呼ばれる。しかしこの考え方は後の研究で何度も批判された。

（参考：文章Ａ、Ｃはデニス・マクウェール著、大石裕監訳『マス・コミュニケーション研究』（慶應義塾大学出版会、2010年）、安野智子『重層的な世論形成過程』（東京大学出版会、2006年）、早川洋行編『よくわかる社会学史』（ミネルヴァ書房、2011年）を参考にした）

問２　**文章Ｂ**で言及されているマスクやトイレットペーパーなどが品薄になっている出来事に関して下線部（＊）のような現象が起こる理由を、**文章Ｃで説明した「直接効果論」ではなく、文章Ａで取り上げた「第三者効果」の考え方に基づいて説明**したらどうなるか、400文字以内で記述して下さい。

問題はここまでです